

# 若者の日本語に対する認識とその背景

永田 照子

## I. はじめに

最近の日本語の言葉遣いについては、使われる語彙の変化や言葉の意味の変化、言葉遣いの乱れや情報機器を用いたコミュニケーションの影響などに関心が集まっている。文化庁文化部国語課では、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施して、日本語についてさまざまな角度から調査し、新しい時代に応じた国語施策の在り方を検討している。

本学ではビジネス情報学科のカリキュラムにおいて必修の専門科目として「国語表現」、「文書管理」、「秘書実務」が設置されていて、正しい美しい言葉遣い、文章表現、マナーなどの修得に力を注いでいる。

そこで、平成13年度に実施された文化庁文化部国語課の調査を本学の女子短大生にも実施し、国語課の調査結果と比較検討して、最近の特に若者の言葉に対する認識、言葉遣いの特徴やその背後にある要因について考察し、併せて本学の教育効果についても検討したいと思う。

## II. 言葉遣い、言語能力に関する調査

### 1. 文化庁文化部国語課の調査

文化庁文化部国語課では、平成12年度（平成13年1月調査）は、「家庭や職場での言葉遣い」について、平成13年度（平成14年1月調査）は、「日本人の言語能力を考える」について、調査を実施し報告書にまとめている<sup>1,2)</sup>。これらの調査はいずれも全国16歳以上の男女個人3,000名（有効回答数は平成12,13年度ともに2,192名）を対象に個別面接調査によって実施されたものである。

### 2. 本学女子短期大学部での調査

調査項目は平成13年度の国語課の調査項目を利用させていただいた。細

部について（選択肢の記号の表示，複数回答可か一つのみかなど）若干異なっているがほとんど同じであるといって差し支えない。

調査対象：本学1年次生 96名

調査の時期：平成14年9月

調査方法：国語表現の時間にクラスごとに集団で実施した。

### 3. 調査の結果

結果については国語課の調査結果と本学女子短大生の結果を併記して示している。また国語課の結果については本学女子短大生と同世代の女性（16歳～19歳）および調査対象全体の両者の結果が示されている。厳密には短大生と全く同じ世代というわけではないが，一応，比較の世代と考えて検討することにした。

調査は言語能力を始めとして，言葉の使い方，外来語の認識，日本語の国際化，外国人の対応の仕方など多岐にわたっているので，本稿では日本語に対する認識，言葉の使い方に関する調査項目などを主とし，平成12年度の国語課の結果とも比較しながら結果を考察したい。

#### 1) 日本語の大切さについて

質問1：日本語の大切さ

全体としては約7割の人が「大切にしている」と回答しているのに対し，本学女子短大生および同世代の女性は3割～4割しか大切に思っていない。そして「どちらとも言えない」が約4割を占めている。年齢層が上がるにつれて「大切にしている」の割合が高くなっている（60歳以上は8割台）と報告されている。大切にする理由を見ると，全体としては「日本語は自分が日本人であるための根幹であるから」が約5割，次いで「日本語は日本の文化そのものであり，文化全体を支えるものだから」である。一方，本学女子短大生は「日本語がないと日本人同士の意思疎通ができないから」が約6割，次いで「日本語によって，ものを考えたり善悪の判断をしたりしていると思うから」が約5割であり，全体では日本語が日本人，日本文化を意識させるものであるのに対し，本学女子短大生は日本語をコミュニケーション，思考の手段として捉えているようである。大切にしない理由は，「たまたま日本人に生まれたので日本語を使っているのにすぎないから」，「特に大切にしなくても通じればよい思うから」がいずれのグループについても多く，伝達的手段にすぎないから，と考えている。「どちらとも言えないが」若い世

質問1 あなたは、毎日使っている日本語を大切にしていますか。それともそうはしていませんか。この中から一つ選んでください。

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)
	大切にしていると思う	余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う	どちらとも言えない	特に大切にしたいと思う	大切にしているとは思わない	分からない
a *本学女子短大生	9.4**	24.0	37.5	20.8	2.1	6.3
b *短大生と同世代の女性	9.8	32.8	39.3	11.5	1.6	4.9
c *全体	33.7	35.4	22.1	6.8	0.9	1.2

\* a は本学女子短大生 (96 名), b は本学女子短大生と同世代 (16 歳～19 歳) の女性 (61 名), c は全体 (2,192 名), 以下の質問についても特に説明がない場合には, 同じ意味である。

\*\*数値は%, 以下の質問についても特に説明がない場合には, 同じ意味である。

質問 1-1 「大切にしていると思う」, 「余り意識したことはないが, 考えてみれば大切にしていると思う」と答えた人に  
それはどのような理由からですか。この中からあなたのお考えに近いものを三つまで挙げてください。

	本学女子短大生 (32 名)	同世代の女性 (26 名)	全 体 (1,514 名)
日本語がないと日本人同士の意志疎通ができないから	59.4	50.0	38.9
日本語によって, ものを考えたり感じたり善悪の判断をしたりしていると思うから	46.9	50.0	39.5
日本語は自分が日本人であるための根幹であるから	40.6	23.1	50.5
日本語は日本の文化そのものであり, 文化全体を支えるものだから	34.4	26.9	41.6
日本語は美しい言葉だと思うから	31.3	26.9	26.6
日本語しかできないから	18.8	26.9	27.7
その他 ( )	15.7	0.0	1.0
分からない	0.0	0.0	0.9

質問 1-2 「特に大切にしていないと思う」, 「大切にしているとは思わない」と答えた人に  
それはどのような理由からですか。この中からあなたのお考えに近いものを三つまで挙げてください。

	本学女子短大生 (22 名)	同世代の女性 ( 8 名)	全 体 (167 名)
たまたま日本人に生まれたので日本語を使っているにすぎないから	54.5	75.0	55.7
特に大切にしなくても通じればよいと思うから	54.5	25.0	52.7
日本語は漢字や敬語があって煩わしてから	22.7	50.0	10.8
日本語といっても, 中国の漢字や, 外来語を使うなど純粋でないから	9.1	0.0	4.8
これからは英語などの外国語の方を大切にしていけばいいと思うから	9.1	25.0	8.4
日本人以外の人にほとんど理解されないから	4.5	0.0	5.4
その他 ( )	18.2	0.0	6.6
分からない	36.4	0.0	2.4

代に多いのは、日本語を日本文化として意識して使っていない、あるいは「日本語」として意識しないで使っているからではないだろうか。

## 2) 言葉の感じ方, 使い方

質問2: 言葉の「乱れ」か, 「変化」か「多様性」かについて

「来ることができる」という意味で, 「来られる」という言い方ではなく「来れる」を使うことについては, どちらでも構わない, 言葉の変化だ, 正しい言い方だと肯定的な捉え方の人は69.8%である。若い世代は8割強である。これはいわゆる「ら抜き言葉」の問題であるが, 国語審議会(現在は文化審議会)ではまだ「ら抜き言葉」は肯定されていないが, 「ら抜き言葉」は可能の用法でのみ使われており, むしろ尊敬や受身などの用法との混乱を避ける意味で使われてもよいのではないかと考える専門家も増えている。

「おっしゃる」や「言われる」という意味で, 「申される」と言うことについては, 肯定的な捉え方の人が全体では73.9%である。一方, 本学女子短

質問2 あなたは, ここに挙げる言い方を「言葉の乱れ」だと思いますか, それとも別の見方をしていますか。次の中から一つ選んでください。

(1) 「来ることができる」という意味で, 「来られる」という言い方でなく, 「来れる」を使うこと

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
「言葉の乱れ」だと思う	12.5	18.0	26.6
「来られる」でも「来れる」でも構わないと思う	31.3	45.9	32.9
「言葉の乱れ」ではなく, 「言葉の変化」だと思う	52.0	29.5	32.5
正しい言い方だと思う	2.1	3.3	4.5
分からない	2.1	3.3	3.6

(2) 「おっしゃる」や「言われる」という意味で, 「申される」と言うこと

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
「言葉の乱れ」だと思う	34.4	18.0	19.8
そういう言い方をしても構わないと思う	30.2	32.8	37.8
「言葉の乱れ」ではなく, 「言葉の変化」だと思う	14.6	19.7	19.3
正しい言い方だと思う	7.3	23.0	16.7
分からない	13.5	6.6	6.3

(3) 「花に水をやる」ということを「花に水をあげる」と言うこと

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
「言葉の乱れ」だと思う	8.3	9.8	15.7
そういう言い方をしても構わないと思う	54.2	49.2	52.2
「言葉の乱れ」ではなく, 「言葉の変化」だと思う	11.5	21.3	16.3
正しい言い方だと思う	22.9	19.7	14.6
分からない	3.1	0.0	1.1

大生は、他のグループと比較して「言葉の乱れ」だとする者が多い。これは授業で「申される」は「謙譲＋尊敬」の表現で間違いと指導していることの影響かと思われる。しかし「構わない」、「正しい使い方」と答える者が少なからず存在するのは問題である。

「花に水をあげる」は肯定的な捉え方の人が83.2%で三つのケースの中で最も割合が高い。

これら三つの表現について、年齢層が上がるにつれて「言葉の乱れ」と感じる人が多くなり、また、日本語を大切にしている人は大切にしていけない人

質問3 あなたは、ここに挙げた(1)から(10)の言葉を使うことがありますか。  
また、意味が分かりますか。

		(ア) 使う	(イ) 使わないが、 意味は分かる	(ウ) 使わないし、 意味も分から ない	(エ) 分からない
(1) けんもほろろ	a	1 1	8 4	83 2	7 4
	b	1.6	14 8	77 0	6 6
	c	33.3	41 1	24 7	0 8
(2) いたたまれない	a	41.7	41 7	15 6	1 0
	b	31 1	50 8	18 0	0 0
	c	58 3	35.6	5 9	0 2
(3) <u>水ももらさぬ</u> 警備	a	3 2	52.6	44 2	0.0
	b	4 9	52.5	39.3	3.3
	c	25 5	59 6	14.4	0 5
(4) <u>つとに</u> 知られている	a	0 0	11 7	80.9	7 4
	b	0.0	9 8	83 6	6 6
	c	7.2	38 3	52 0	2 5
(5) <u>とみに</u> 進歩した	a	2 1	21.1	66 3	10.5
	b	4 9	44 3	44 3	6 6
	c	20 9	53 3	24.3	1 4
(6) <u>おもむろに</u> 立ち上がった	a	28.4	57 9	10 5	3 2
	b	34 4	59.0	6 6	0.0
	c	50 6	43 7	5.3	0.4
(7) 心もとない	a	13 8	47 9	34 0	4 3
	b	26.2	45 9	26 2	1 6
	c	58 1	33.2	8 1	0.5
(8) 言わずもがな	a	4 2	13 7	72.6	9 5
	b	1.6	36 1	57 4	4 9
	c	13.2	45 9	38 1	2 7
(9) <u>よんどころない</u> 事情	a	2 1	15.8	72 6	9.5
	b	3 3	27.9	63.9	4.9
	c	37 3	43 6	18.0	1 1
(10) <u>ゆゆしき (ゆゆしい)</u> こと	a	4 2	24 2	61 1	10 5
	b	4 9	39.3	47 5	8.2
	c	19 1	52 0	27 4	1 6

より「言葉の乱れ」だと思ふ人の割合が高い、と国語課の報告書では述べられている。

上記の結果は全体の流れとしては「言葉の乱れ」よりも「言葉の変化、多様性」に変わってきているのであろう。

### 質問3：慣用句などの使用、意味の理解について

「使う」と回答した人の割合が高かった語句は、「いたたまれない」(58.3%)、「心もとない」(58.1%)、「おもむろに立ち上がった」(50.6%)で、いずれも5割を超えている。逆に、低い値を示したのは、「つとに知られている」が最も低く(7.2%)、「言わずもがな」(13.2%)、「ゆゆしき(ゆゆしい)こと」(19.1%)であった。

「使う」人の割合は、全体では年齢層が上がるほど高くなり、本学女子短大生や同世代の女性においては「つとに知られている」は皆無であり、本学女子短大生において「けんもほろろ」は1.1%、「とみに進歩した」、「よんどころない事情」は2.1%の低さである。「けんもほろろ」、「つとに知られている」は約8割の人が「使わないし、意味も分からない」と回答している。異世代間のコミュニケーション、相互理解が成り立たなくなりつつある現状と言えよう。

### 3) 言語生活と情報媒体

#### 質問4：生活に必要な情報を何から得ているか（受信）

テレビは全年齢層で9割以上であった。全体では次に新聞が87.1%と高いが、これは年齢層で異なり、年齢層が上がるにつれて割合が高くなっている（国語課の報告）。

一方、雑誌は逆に本学女子短大生や同世代の女性が最も高く、国語課の調査では年齢が上がるにつれて低くなっている。同じ活字媒体であるが、若い世代では新聞記事のような堅いと感じられる、いわゆる政治、経済、社会問題についてあまり関心がなく、一方、一口に雑誌といっても堅いものから読みやすい情報誌や漫画満載のものまであり、イベントや旅の情報などは雑誌から得られるからであろう。インターネットが若い世代でやや高く、本学女子短大生が他と比べて高い値を示しているのは、情報処理演習の授業で学んでいる結果であろう。

また、本学の調査で、「その他」の項目に人から情報を得ると回答した人が少数ではあるが存在した。人も貴重な情報提供者である。

質問4 あなたは、毎日の生活に必要な情報を何から得ていますか。利用することの多いものを三つまで挙げてください。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
テレビ	96.8	98.4	92.6
雑誌	72.6	57.4	29.7
新聞	41.1	65.6	87.1
インターネット	38.9	19.7	12.6
ちらし・ビラ	17.9	9.8	18.0
本や事典	9.5	11.5	10.9
ラジオ	4.2	13.1	19.6
その他 ( )	13.7	3.3	1.4
分からない	0.0	0.0	0.1

質問5：人とのやりとりに、どのような方法を用いているか（交信）

全体としてみたときには、「直接会って話す」(93.8%)、「電話」(78.0%)が群を抜いて高く、次いで「携帯電話」(36.9%)、「手紙・はがき」(24.6%)の順であった。書く手段より話す手段といえよう。これも国語課の調査の報告では年齢層によって違いが顕著であり、相対的に高年齢層（60歳以上）では「手紙・はがき」の割合が高く（41.5%）、逆に本学女子短大生では、「携帯メール」が最も高い割合（95.8%）で、次いで「直接会って話す」(92.7%)となっている。「携帯電話」も高い割合（70.8%）である。本学女子短大生において、人とのやりとりが、まず携帯メールで連絡し合って、それから直接会って話をするという形態になってきていることがうかがえる。若い世代では「電話」は完全に携帯電話にとって替わられたといえよう。また、「手紙・はがき」は60歳以上の高年齢層に比べて本学女子短大生は約5分の1（8.3%）である。

質問5 あなたは、毎日の生活で、人とやりとりをするとき、どのような方法を用いていますか。この中から三つまで挙げてください。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
携帯メール	95.8	72.1	17.6
直接会って話す	92.7	93.4	93.8
携帯電話	70.8	59.0	36.9
電話	18.8	39.3	78.0
手紙・はがき	8.3	19.7	24.6
インターネット	6.3	0.0	1.9
電子メール	5.2	3.3	8.8
ファックス	0.0	1.6	5.0
その他 ( )	0.0	0.0	0.0
分からない	1.0	0.0	0.1

## 質問 6：情報媒体多様化の影響

携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、私たちの日常生活に与えている影響については、人間関係にも深く関わってくることである。

まず、国語課の調査結果から、60 歳以上の人を除いて、「手紙やはがきは余り利用しないようになった」が全般的に多いことが分かる。また、「手で書くことが面倒くさく感じるようになった」人や、「漢字を正確に書く力が衰えた」と思う人が 30～40 代に多いことが、そして若年層でメールへの依存度が高い、すなわち、「携帯メールの着信が気になって度々確認するようになった」、「口頭で言えば済むことでも、メールを使うようになった」の割合が高いことが分かる。

以前、週刊誌『AERA』<sup>3)</sup>に、父親が自宅通勤のときはほとんど話をしなかった娘が単身赴任で遠く離れて父親が住むようになってから、却ってお互いに携帯メールでコミュニケーションをよくとるようになった、と父親も娘も通信料はかかってもそれに代わる大切な親子の絆を得ることができた、という記事がでていた。平成 12 年度の国語課の調査でも、メールのやりとりで感じることをして、「メールには要点だけを書くので、簡潔なやりとりになる」、「メールは話すように書けるので、思ったことが言いやすい」、「直接言い難いこともメールだと言える」などが挙げられていた。また、「メールでは打ち解けた言葉遣いができるので、相手と親しくなれる」、「顔文字を見ると、発信者への親しみを感じる」の割合が若年層ほど高い傾向も顕著であった。

一方、「友人と常に携帯電話で連絡を取り合わないではいけないようになった」と回答した人も若年層で存在する (19.7%)。お互いがメールを交換し合っているあいだはよいが、ある日、誰からもメールを受信しなかったときの孤独感は耐えがたいものがあるという。

このように携帯電話の登場は言葉遣いから、人と人の結びつきのあり方まで変えてしまったように感じられる。

メールでのやりとりが真の意味でコミュニケーションと言えるのか、上滑りなのか、疑問は残る。顔を見合わせながらのコミュニケーションが同時に持たれることも本当の相互理解のためには不可欠であろう。



質問 6 携帯電話や電子メールなどの普及による情報交換手段の多様化が、私たちの日常生活に影響を与えているという意見があります。そのような影響の例として思い当たることがありますか。この中から幾つでも挙げてください。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
手紙やはがきは余り利用しないようになった	65.6	44.3	41.6
携帯メールの着信が気になって度々確認するようになった	62.5	57.4	16.5
漢字を正確に書く力が衰えた	58.3	32.8	41.3
口頭で言えば済むことでも、メールを使うようになった	50.0	47.5	17.2
大した用もないのに携帯電話を掛けるようになった	29.2	24.6	17.3
手で書くことが面倒くさく感じるようになった	21.9	24.6	31.9
友人と常に携帯電話で連絡を取り合わないではいられないようになった	15.6	19.7	7.5
電車の中など公共の場所でも、自分だけの世界を作れるようになった	12.5	14.8	6.7
漢字を多く使うようになった	8.3	9.8	4.3
メールだと悪筆であることも関係ないので、まめに発信するようになった	8.3	13.1	6.7
直接人と会って話すことが面倒くさく感じるようになった	6.3	9.8	11.3
特に思い当たることはない（影響を与えているとは思わない）	5.2	4.9	21.4
その他（ ）	8.3	3.3	1.2
分からない	1.0	3.3	6.7

#### 4) 察しの能力について

質問 7：日本人同士の会話における察しの能力

最近、日本人の「察しの能力」が低下しているという意見に対して、全体では、5割強の人がそう思っている。しかし年齢層によって異なり本学女子短大生、同世代の女性では4割強で、40代以上の年齢層で6割台の高い割合（国語課の調査結果）になっている。若い年代では察して行動するという経験が乏しいことによって判断しにくい面があり、それが「どちらとも言えない」の割合をいくらか増しているのかもしれない。

質問 8：「察しの能力」の意味付け

全体では、「これからの時代は、きちんと言葉に出して言うべきだと思う」（34.0%）、「相手や状況によっては『察し合い』の会話をし、必要に応じてきちんと最後まで言うようにすればいいと思う」（32.1%）が同じような割合で高かった。本学女子短大生においては、後者が群を抜いて高い割合（47.9%）を示した。状況判断を的確にという指導を秘書実務や秘書実務演

質問7 日本人同士の会話は、往々にして自分の意見や考えを最後まで言わず、互いの察し合いで成り立つことがあります。最近、日本人の「察しの能力」が低下しているという意見がありますが、あなたはこのことについて、そう思いますか、それともそうは思いませんか。

	(ア) 非常にそ う思う	(イ) まあ、そう 思う	(ウ) どちらとも 言えない	(エ) 余りそうは 思わない	(カ) 全くそうは 思わない	(キ) 分からない
a 本学女子短大生	7.3	34.4	32.3	16.7	2.1	7.3
b 同世代の女性	8.2	29.5	24.6	23.0	3.3	11.5
c 全 体	13.0	43.1	25.5	12.6	1.1	4.6

質問8 それでは今後、「察しの能力」はどのように意味付けられると思いますか。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
相手や状況によっては「察し合い」の会話をし、必要に応じてきちんと最後まで言うようにすればいいと思う	47.9	34.4	32.1
これからの時代は、きちんと言葉に出していうべきだと思う	16.7	27.9	34.0
誤解を招くことがあるから、余り相手の「察し」を期待しない方がいいと思う	14.6	21.3	12.5
「察し合い」は日本人の文化であるから、今後も大切なコミュニケーション能力の一つとして伝えていくべきだと思う	12.5	13.1	16.4
分からない	8.3	3.3	5.1

習、あるいは国語表現においておこなっており、その結果がみられる。

## 5) 美しい日本語

質問9：美しい日本語はあるか

全体では、美しい日本語が「あると思う」人は84.8%、「ないと思う」人は2.4%、「どちらとも言えない」人が10.7%で、圧倒的に「あると思う」人の割合が高い。本学女子短大生、同年代の女性も同様に割合が高い。国語課の調査で、日本語の大切さに関する意識別では、日本語を大切にしている人は、大切にしていない人に比べると、美しい日本語が「あると思う」人の割合が16ポイント高い。

質問9-1：「美しい日本語」とはどのような言葉か

いずれのグループにおいても最も割合が高かったのは、「思いやりのある言葉」であり、次いで「あいさつの言葉」であった。あと幾らかグループに

質問9 あなたは、「美しい日本語」というものがあると思いますか。それともそうとは思いませんか。この中から一つ選んでください。

	(ア) あると思う	(イ) ないと思う	(ウ) どちらとも 言えない	(エ) 分からない
a 本学女子短大生	81.3	5.2	12.5	1.0
b 同世代の女性	73.8	3.3	18.0	4.9
c 全 体	84.8	2.4	10.7	2.1

質問9-1 「あると思う」に答えた人に

あなたにとって「美しい日本語」とはどのような言葉ですか。あなたのお考えに近いものをこの中から三つまで挙げてください。

	本学女子短大生 (78名)	同世代の女性 (45名)	全 体 (1,859名)
思いやりのある言葉	55.2	71.1	64.7
あいさつの言葉	47.9	64.4	43.9
アナウンサーや俳優などの語り方	30.2	31.1	26.4
素朴ながら話し手の人柄がにじみ出た言葉	26.0	24.4	31.3
故郷の言葉	24.0	6.7	17.6
短歌、俳句などの言葉	15.6	26.7	28.5
控え目で謙遜な言葉	9.4	26.7	31.3
童話・文部省唱歌の歌詞	8.3	4.4	11.6
漢詩・漢文などの引き締まった表現	3.1	0.0	7.2
その他 ( )	3.1	0.0	0.8
分からない	0.0	2.2	0.6

よって順位は若干異なるが、「アナウンサーや俳優の語り方」、「素朴ながら話し手の人柄がにじみ出た言葉」などが続く。人との交わりの中で相手のことを思いやった言葉が聞く人に美しく響くと思われる。本学女子短大生が同世代の女性に比べて故郷の言葉を美しいと感じる割合が高い（約4倍）が、これは各地から来ている学生との会話、あるいは旅行に出かけて土地の人との会話の経験が相対的に豊富であるというところからきているのではないだろうか。

国語課の調査で、日本語の大切さに関する意識別では、大切にしている人は、大切にしていない人に比べて、「思いやりのある言葉」や「控え目で謙遜な言葉」の割合が高い。

## 6) 心と心を結ぶ言葉

質問10：言葉を交わす喜び、言葉の大切さを感じるとき

質問 10 あなたはどのような言葉に出会ったとき、人と人が言葉を交わす喜びや、心と心を結ぶ言葉の大切さを感じますか。この中からあなたのお考えに近いものを三つまで挙げてください。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
相手と十分に話し合って、お互いに理解し合えたと実感したとき	60.4	50.8	37.7
地域や職場で、気持ちよくあいさつをし合うとき	55.2	47.5	55.0
遠く離れた家族や友人と電話で話すとき	38.5	19.7	18.1
母親が赤ちゃんに優しく語り掛けるのを聞くとき	30.2	13.1	25.5
山道などで行き合った者同士が、「こんにちわ」などと声を掛け合うとき	26.0	34.4	45.9
失敗をとがめず、「大丈夫、気にしないで」と慰められたとき	22.9	31.1	16.7
信頼している人から厳しい注意や忠告を受けたとき	16.7	9.8	7.3
仲間などから「無理しないで、休んでください」と気遣われたとき	10.4	31.1	19.9
人々がその地域の言葉を交わし合うのを聞くとき	8.3	13.1	21.4
季節のあいさつや安否を気遣う手紙をもらったとき	4.2	4.9	16.1
その他（ ）	3.1	0.0	0.3
分からない	1.0	1.6	1.4

本学女子短大生と同世代の女性は、ともに「相手と十分に話し合って、お互いに理解し合えたと実感したとき」が最も割合が高く、次に「地域や職場で、気持ちよくあいさつをし合うとき」が高い。本学女子短大生はあと「遠く離れた家族や友人と電話で話すとき」、「母親が赤ちゃんに優しく語り掛けるのを聞くとき」の順である。同世代の女性は、「山道などで行き会った者同士が、『こんにちは』などと声を掛け合うとき」、「失敗をとがめず、『大丈夫、気にしないで』と慰められたとき」である。全体としては、「地域や職場で、気持ちよくあいさつをし合うとき」が最も割合が高く、「山道などで行き会った者同士が、『こんにちは』などと声を掛け合うとき」、「相手と十分に話し合って、お互いに理解し合えたと実感したとき」と続く。言葉を通じての相互理解、気持ちのよいあいさつは、言葉を交わす喜び、言葉の大切さを感じる重要な要因であろう。

## 7) 言葉遣いの心掛け

質問 11：日ごろ言葉遣いで心掛けていること

いずれのグループも「自分が言われて嫌なことは言わない」が最も高い割合であり、本学女子短大生は8割強である。次いで「相手や場面に応じて敬

質問 11 あなたが日ごろから言葉遣いで心掛けていることはどんなことですか。  
この中から幾つでも挙げてください。

	本学女子短大生	同世代の女性	全 体
自分が言われて嫌なことは人には言わない	81.3	62.3	68.1
相手や場面に応じて敬語を使う	78.1	63.9	58.0
他人の話の腰を折らない	32.3	18.0	33.6
自分の話し方の癖を（説教調，愚痴っぽい，早口）できる だけ矯正しようとしている	29.2	23.0	13.2
自分の能力や持ち物などを自慢しない	28.1	14.8	25.7
一応相手の考えを認めた上で，反論する	26.0	21.3	24.2
できるだけ分かりやすい平易な言葉を使う	24.0	19.7	30.9
汚い言葉や下品な表現は使わない	22.9	24.6	35.4
大勢で話すときは，話題が適切かどうか，みんなが話に加 わり発言の機会に偏りが無いかなどに気を配る	19.8	19.7	20.4
だれに対しても自分からあいさつする	14.6	26.2	36.3
その他（ ）	2.1	0.0	0.5
言葉遣いについて特に心掛けていることはない	0.0	6.6	4.1
分からない	0.0	0.0	0.5

語を使う」が同じく 8 割近い割合である。この二つが群を抜いている。人との付き合いにおいて、「言われて嫌なことは言わない」は良好な人間関係の維持のために非常に重要なことである。また，平素の授業においても「相手および第三者と自分の間の人間関係の把握，そして，場面の把握が敬語を使う上でのポイント」と繰り返し指導をしている。

## 8) 日本人の日本語能力など

この項目については表を示さないで，簡単に結果を述べる。

質問 12：日本人の日本語能力について

「読む」「書く」「話す」「聞く」の 4 分野の日本語能力を比較してみると，どの分野においても低下していると感じていて，特に書く力の低下の割合が高い。本学女子短大生の調査結果も国語課の調査結果も同様であった。

質問 13：向上させたい日本語能力

国語課の調査において，全体では「読む力」では，「本や新聞を読んで一通り理解する力」(60.9%)，「書く力」では，「内容が読み手に正しく伝わるように文章を書く力」(46.8%)，「話す力」では，「相手や場面にふさわしい言葉遣いで話す力」(32.3%)と「自分の考えを筋道を立てて述べ伝える力」(43.4%)，「聞く力」では，「相手の話を聞いて理解する力」(59.6%)，「総

合的な力」としては、「言葉や態度から相手の気持ちや真意を察する力」(35.5%)を挙げた人の割合が高かった。以上の結果は本学女子短大生においても同じであった。

#### 質問 14：日本語能力の基盤となる知識

全体では、「敬語や配慮の表現に関する知識を増やす」が最も割合が高く 69.9% であった。本学女子短大生では 90.6% にものぼり、これは敬語の正しい使い方の重要性を秘書実務や国語表現の授業で述べ、実習している効果であろうか。次いで「漢字・漢語の知識を増やす」(58.2%)、「様々な語句、ことわざ、言い回しなどの知識を増やす」(57.2%)となっている。国語課の調査結果では、日本語の大切さに関する意識別では、日本語を大切にしている人は大切にしていない人に比べて、上位 3 項目すべてで割合が高くなっている。

#### 質問 15：日本語能力向上のための個人の方策

全体の割合でみると、「もっと読書に親しむようにする」(67.6%)、次いで「できるだけまめに手紙や日記を書く」(32.5%)、「手引書などを参考にして、正しい敬語や言葉遣いを心掛ける」(27.1%)、「基準に従って文字や文章を書くようにする」(20.5%)の順であった。本学女子短大生の結果は、「もっと読書に親しむようにする」(67.7%)、「できるだけまめに手紙や日記を書くようにする」(52.1%)、「基準に従って文字や文章を書くようにする」(39.6%)、「手引書などを参考にして、正しい敬語や言葉遣いを心がける」(38.5%)の順で、全体の傾向とほぼ同じであった。手紙や日記を書くようにする、文字や文章を書くようにする、正しい敬語や言葉遣いを心がける、の値が同世代の女性に比べても高い割合を示した。これも本学での実務教育の成果と言えよう。いずれにしても個人の方策は活字に親しみ、書き言葉からと言えそうである。

#### 質問 16：日本語能力向上のための国・自治体の方策

全体の割合でみると、「学校教育での国語教育の充実を図る」が最も割合が高く 6 割強、次いで、「学校全体が児童・生徒にとって良い言語環境となるようにする」(47.6%)で、いずれも学校教育にかかわる方策を挙げている。「国民がもっと読書に親しむように図書館のサービスを向上させる」(27.8%)が次に挙げられている。本学女子短大生、同世代の女性においても

同様の結果を示している。本学女子短大生の場合は、「敬語や言葉遣いのモデルを示す」も高い割合（42.7%）を示している。高校生や短大へ入学して間もない人たちが学校教育での国語教育の充実を望んでいるのはいかなる意味なのであろうか。現状の中学・高校教育のあり方に満足していないということであろう。

#### 4. 考 察

言葉、特に話し言葉の機能は、一つには自分が伝えたい内容を正確に分かりやすく相手に伝える媒体としての働きがある。つまりコミュニケーションの一つの手段の機能である。もう一つは人間関係の維持という働きがある。コミュニケーションにあたっては、話し手と聞き手の間に共有する領域が広いほど理解されやすい。共有する部分が狭いほど伝えたい内容を正確に分かりやすく伝えるための努力がなされなければならない。聞き手の年齢はいくつくらいか、男性か女性か、仕事はなにか、どんな価値観を持っているかなど挙げだせばきりがない。聞き手がどのような人かを認知できるように努めることがまず肝要であり、次にそれに相応しい言葉選び、表現方法を考える、などが必要である。

一方、人間関係の維持の働きは伝達内容よりも声をかけることそのものに意味があるのである。「おはよう、今日もいい天気ですね」というのは、天気のをさを伝えるということよりも、あなたとお話できて嬉しい、あるいはあいさつが交わってよかった、ということであろう。

本調査においても年代によって使われなかったり、使い方が異なっていたりする言葉があった。コミュニケーションにあたってはこのことを各世代において十分理解しておく必要がある。また、美しい日本語とは「思いやりのある言葉」というのは、まさに人間関係における言葉の大切を物語っている。

本学女子短大生の調査結果から、本学での実務教育が成果をもたらしていることがわかった。私たちは、日常生活の中で言葉を磨き、良いコミュニケーションと良い人間関係を築き維持することに努めたいものである。

携帯電話の普及により、コミュニケーションの手段や人との交わり方も変わってきてはいるが、人と人との直接の触れ合いの大切さを十分認識しなければならない。

### III. 終わりに

ささやかな調査ではあったが、この結果を参考に、授業をより良いものにするよう努力したいと考えるものである。

この調査にあたり、ご協力いただいた本学の今村みゑ子教授に感謝の意を表するものである。

#### 註

- 1) 世論調査報告書『平成 12 年度 国語に関する世論調査—家庭や職場での言葉遣い—』，文化庁文化部国語課，2001 年
- 2) 世論調査報告書『平成 13 年度 国語に関する世論調査—日本人の言語能力を考える—』，文化庁文化部国語課，2002 年
- 3) 「E メールで家族の絆—ネットが深めるコミュニケーション—」，AERA，Vol. 12，No. 51，pp 6～9，1999.12/6